

toVO トゲネ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3



NO. **032**
20141111

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 葛西 厚大さん・麻紀子さん・蹴叶くん・莉愛ちゃん・唯愛ちゃん
しゅうと りあ ゆあ

撮影場所 ▶ 藤崎町常盤字二西田

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶ 厚大さん「私は勤務先の青森市役所浪岡事務所にいました。すごい揺れで停電し、職場の震度計は震度4。建設土木関連の部署なんですけど、震度4以上だと機などの見回りをしなければならない。家族を心配しながらも現場に出かけました。」

▶ 麻紀子さん「翌日の土曜日勤務の振り替えて休みだったので、買い物に出かけていたところ地震が来て、陳列棚のものがパッと落ちた。子どもたちが保育園にいるので、当時自宅のあった浪岡に車で向かいましたが、信号も全然点いていなかった。夫と連絡をとろうとしたけど電話はつながらないし、夫は職業柄、災害のときは職場待機になるので、帰って来られないことは分かっていました。借家だったんですけどオール電化で、唯愛はまだ8カ月で、ミルクのお湯をどうしようって…。カセットコンロがあったので、それでお湯をわかして。」

▶ 厚大さん「職場から家が近かったので、夜に様子を見に行き、顔を見たら安心した。電気もなくストーブもつけられずに寒くて。車にテレビがついていて、暖房もあるし、車にいろんと言って、職場に戻りました。」

▶ 麻紀子さん「車で暖をとりながら、子どもたちが不安にならないよう、DVDなどを見せて。でも21時には限界だと感じて、家に入って毛布とか全部出して子どもたちを寝かせました。次の日は私は仕事で、保育園に3人連れて行ったら、「きょうは預かれなさい」と。しょうがないから職場に連れていきました。当時の担当は病院事務だったので、上の2人は待合室でひたすら遊ばせて(笑)。唯愛は病院の食堂に勤務していた友人が見てくれました」

▶ 厚大さん「浪岡は病院周辺などの電気の復旧は早かったけど、それ以外の地区は2～3日遅れたんです。自分が帰宅したのも電気が復旧してから。浪岡事務所は自家発電があり、避難所になりました。青森市役所まで避難所用の配給品をとりに行った帰り道、沿道に電気がばばばと点いて、それを見て家に電話したら、間もなく復旧した

と。」

▶ 麻紀子さん「いつになったら電気が点くのか、夫が帰ってくるのか…とこわかった。子どもたちもいつもと感じていたみたいで、バカ騒ぎしたりはあんまりなくて、いつもより言うことを聞いてくれました(笑)」

●その後、心境や生活の変化は？

▶ 麻紀子さん「震災前でも、災害が起これば夫は待機で帰ってこないことが何度もあり、「家のことは放つたらかして」「私はどうすればいいの?」と責めたこともあった。でも、震災で救助活動にあたる人々をテレビで見ると、その人たちの家族の気持ちを思いました。夫もそういう仕事。それ以来、大雪などで夫が仕事に出て、言わなくなりました。」

▶ 厚大さん「言わなくなったな、たしかに(笑)。強くなったんじゃない? 奥さんにはいつも悪いと思って…。子どもたちはまだ小さいけれど、身の回りのことなどなるべく自分でできるようになってほしいと思って毎日接しています。家の中で一人でできていけば、外でも大丈夫かと。いつどうなるか分からない世の中だと思うので、生きる力をちょっとでも身につけてもらいたくて。(何かできたとき)一人ほめるとケンカになるんだけど(笑)」

●10年後どうしているでしょう? ▶ 厚大さん「正直みんなです。いつまでも一緒にいたいと思っているけど、子どもは巣立っていく。私は変わらず、こいつ(麻紀子さん)とケンカしながら、かな(笑)。」 ▶ 麻紀子さん「なにかあったときに、みんな集まって団結できるような絆を強くしていきたい。」

●夢は? ▶ 厚大さん「いずれは子どもたちの結婚式に出て泣きたい(笑)。」 ▶ 麻紀子さん「娘と一緒に買い物したり遊びに行ったりしたい。」 ▶ 蹴叶くん「サッカー選手」 ▶ 莉愛ちゃん「パティシエになりたいの」 ▶ 唯愛ちゃん「ケーキ屋さん」 ▶ 厚大さん「娘2人でいつもままとして、最近スイーツにはまっているみたいだね。」

定期購読のご協力をお願い致します

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)／1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

取材した10月13日は、大型で強い台風19号が本県に接近していた日。厚大さんはテレビで天候状況をチェックしながら、ハラハラしている様子でした。災害の際、あえて現場に出て行かなければならない人がいて、その人の安全と帰りを待っている家族もいます。また、震災の時、働くお母さんたちがぶつかった困難にも、改めて気付かされました。それぞれが自分の役割を担う中で、私たちはどうやって助け合っているのでしょうか。考える機会ともなりました。【前田ふひと】

東日本大地震・津波遺児チャリティー



2011年6月～2014年10月30日まで

¥2,801,303

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶葛西 厚大さん・麻紀子さん・蹴叶くん・莉愛ちゃん・唯愛ちゃん

撮影場所▶藤崎町常盤字二西田

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶厚大さん「私は勤務先の青森市役所浪岡事務所にいました。すごい揺れで停電し、職場の震度計は震度4。建設土木関連の部署なんですけど、震度4以上だと橋などの見回りをしなければならない。家族を心配しながらも現場に出かけました。」

▶麻紀子さん「翌日の土曜日勤務の振り替えで休みだったので、買い物に出かけていたところ地震が来て、陳列棚のものがバーっと落ちた。子どもたちが保育園にいたので、当時自宅のあった浪岡に車で向かいましたが、信号も全然点いていなかった。夫と連絡をとろうとしたけど電話はつながらないし。夫は職業柄、災害のときは職場待機になるので、帰って来られないことは分かっていました。借家だったんですけどオール電化で、唯愛はまだ8カ月で、ミルクのお湯をどうしようって…。カセットコンロがあったので、それでお湯をわかして。」

▶厚大さん「職場から家が近かったので、夜に様子を見に行き、顔を見たら安心した。電気もなくストーブもつけられずに寒くて。車にテレビがついていて、暖房もあるし、車にいろんと言って、職場に戻りました。」

▶麻紀子さん「車で暖をとりながら、子どもたちが不安にならないよう、DVDなどを見せて。でも21時には限界だと感じて、家に入って毛布とか全部出して子どもたちを寝かせました。次の日私は仕事で、保育園に3人連れて行ったら、『きょうは預かれない』と。しょうがないから職場に連れていきました。当時の担当は病院事務だったので、上の2人は待合室でひたすら遊ばせて（笑）。唯愛は病院の食堂に勤務していた友人が見てくれました」

▶厚大さん「浪岡は病院周辺などの電気の復旧は早かったけど、それ以外の地区は2～3日遅れたんです。自分が帰宅したのも電気が復旧してから。浪岡事務所は自家発電があり、避難所になりました。青森市役所まで避難所用の配給品をとりに行った帰り道、沿道に電気がぱぱぱと点いて、それを見て家に電話したら、間もなく復旧したと。」

▶麻紀子さん「いつになったら電気が点くのか、夫が帰ってくるのか...とこわかった。子どもたちもいつもと違うと感じていたみたいで、バカ騒ぎしたりはあんまりなくて、いつもより言うことを聞いてくれました（笑）」

●その後、心境や生活の変化は？

▶麻紀子さん「震災前でも、災害が起これば夫は待機で帰ってこないことが何度もあり、『家のことは放ったらかしで』『私はどうすればいいの?』と責めたこともあった。でも、震災で救助活動にあたる人たちをテレビで見て、その人たちの家族の気持ちを思いました。夫もそういう仕事

。それ以来、大雪などで夫が仕事に出ても、言わなくなりました。」

▶厚大さん「言わなくなったな、たしかに（笑）。強くなったんじゃない？ 奥さんにはいつも悪いと思って…。子どもたちはまだ小さいけれど、身の回りのことなどなるべく自分でできるようになってほしいと思って毎日接しています。家の中で一人でできていけば、外でも大丈夫かと。いつどうなるか分からない世の中だと思うので、生きる力をちょっとでも身につけてもらいたくて。（何かできたとき）一人ほめるとケンカになるんだけど（笑）」

●10年後どうしているでしょう？

▶厚大さん「正直みんなでいつまでも一緒にいたいと思っているけど、子どもは巣立っていく。私は変わらず、こいつ（麻紀子さん）とケンカしながら、かな（笑）。」

▶麻紀子さん「なにかあったときに、みんな集まって団結できるような絆を強くしていきたい。」

●夢は？

▶厚大さん「いずれは子どもたちの結婚式に出て泣きたい（笑）。」

▶麻紀子さん「娘と一緒に買い物したり遊びに行ったりしたい。」

▶蹴叶くん「サッカー選手」

▶莉愛ちゃん「パティシエになりたいの」

▶唯愛ちゃん「ケーキ屋さん」

▶厚大さん「娘2人でいつもままごととしてて、最近はスイーツにはまっているみたいだね。」

【編集後記】取材した10月13日は、大型で強い台風19号が本県に接近していた日。厚大さんはテレビで天候状況をチェックしながら、ハラハラしている様子でした。災害の際、あえて現場に出て行かなければならない人がいて、その人の安全と帰りを待っている家族もいます。また、震災の時、働くお母さんたちがぶつかった困難にも、改めて気付かされました。それぞれが自分の役割を担う中で、私たちはどうやって助け合っていけるのでしょうか。考える機会ともなりました。

【前田ふひと】

【寄付総額】

2011年6月～2014年10月30日まで、「¥2,801,303」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。